



スポーツにおける日本と海外での価値観の違い ～学校体育の指導方法と部活動について～

体育学部体育学科スポーツ文化コース 3年次生 川村日菜子

1、はじめに

この度はふるさと会海外研修生に選出していただき、ありがとうございました。

大学に入学する前からこの研修に参加したいとずっと考えていました。その目標を実行することができ、カナダという地で挑戦する機会をいただけたこと、すごく嬉しく思います。

今回の研修での私の行動、学んだことを報告させていただきます。

2、研修期間

2025年2月23日（日）～2025年3月18日（火） 【25日間】

3、渡航先

カナダ バンクーバー（バーナビー）

4、研修目的

- ① カナダの学校体育の授業の実態を知り、日本の授業方法との違いを明らかにする。
- ② 語学学校にて様々な国の教育に対する、部活動に対する、スポーツに対する価値観を知り、日本との違いを明らかにする。

国境を越えて知った指導方法を日本教育で活用・実践できるよう繋げたい。

5、研修先

- ・ LCI Language School 【語学学校】
- ・ LaSalle College Vancouver 【現地大学】

6、行動記録

2月23日

飛行機の遅延トラブルにより関西国際空港→香港国際空港→バンクーバー国際空港の予定が急遽関西国際空港→香港国際空港→トロント国際空港→バンクーバー国際空港という当初よりも長い空の旅を経て予定よりも約14時間遅れでバンクーバーに到着した。海外には行き慣れているが、完全に一人で海外に行くのは初めてだったため、また旅行ではなく研修という目的があったため引き返すこともできず不安を抱えながらの旅の始まりとなった。スルーバゲージの予定がトロントでは国際線から国内線への乗り換えであったため荷物も再度預け直さないといけなかったり入国審査の手続きをいつもと違うやり方で行ったりと初めてのことがたくさんだったが無事にバンクーバーに到着することができた。今回の研修の目的はスポーツに関することであったが、私は将来海外で働き、住みたいという目標と英語を話せるようになりたいという夢があるため、将来につながる研修になるように意識した研修期間を過ごそうと決めていた。そのため、飛行機でも隣の席になった優しいカナダ人の女性とたくさん話したり、その横に座っていた中国語しか話せない女性の翻訳を少しお手伝いしたり積極的に周りの人とコミュニケーションを取るようにした。



2月24日

深夜にバンクーバーに到着し、お世話になるホームステイ先へと向かった。この日から語学学校へ行き、調査も行う予定だったので睡眠時間2時間で LCI Language School へと向かった。初日の語学学校では日本人としか関わることができずアンケート調査も少ししか進まなかった。

放課後にはカナダで有名なプーティンというフライドポテトにグレイビーソースとモッツアレラチーズをかけた食べ物をマクドナルドで食べた。私が海外に行くときの一つの楽しみにしているマクドナルドのマックフルーリーの食べ比べとスターバックス。カナダのマックフルーリーは種類が豊富でザクザク感が日本より感じられすごく美味しかった。



2月26日

Pink Shirt Day といういじめをなくすことを目的とした運動を学校で行った。カナダでできた運動で毎年2月最終水曜日がピンクシャツデーとして定められている。

2007年、カナダの二人の学生から瞬く間に世界中に広まった世界的いじめ反対運動。ピンクのシャツを着て投稿した少年がゲイだといじめられた。それをみた2人の学生が75枚のピンクのシャツを友人・知人に配って翌日登校した。学校では呼びかけに賛同した多数の生徒がピンクのシャツを着て登校し、学校中がピンク色に染まり、いじめが自然と無くなった。このエピソードが SNS で世界中に広まり、今では70カ国以上で活動が行われている。



2月27日

英語の実力を知るため、英語習得をするため、日本で一度見たことのある映画「MUFASA」を映画館に観に行った。ディズニー映画ということもあり比較的聞き取りやすく理解しやすい英語であった。もっと難しい映画を英語で見られるようになったらいいなと思った。



3月2日

バンクーバーで有名な蒸気時計。蒸気を動力とした珍しい時計で、世界で唯一ここにしかないものだ。15分おきに蒸気で笛がなる。



3月7日

晴れた日だったので語学学校での研修後、友人たちと一緒にイングリッシュベイという海から見える夕日を見に行った。自然が多く、犬を離して散歩させている光景も多く見られた。



3月8日

アクティビティに参加し中国人の女性と仲良くなった。英語がすごく達者な方で、難しい単語をたくさん使用していたが、一生懸命私の話を聞いてくれ、ゆっくりと説明してくれ、たくさんコミュニケーションを取ることができた。



カナダではウィンタースポーツで有名なスキー、スノーボード。せっかくなのでバンクーバーから1時間かからずに気軽に行けるグラウスマウンテンへ。バンクーバー市内でボードをレンタルしナイターのスノーボードに向かった。市内からすぐの山のため、山の上から綺麗な市内を一望でき、その中で滑れるスノーボードは最高だった。



3月9日

仲良くなれたメキシコ人の人たちとランチに行った。メキシコ料理店に連れて行って
くれ、異文化を楽しめた。カナダは世界で初めて多文化主義を法制化した国だとい
うこともあり、語学学校においても現地の大学においてもカナダ人と触れ合う機会が少
なく、調査をする上でバンクーバーだけで多国籍のアンケート結果が収集できてよか
った。



3月10日

カナダで有名なアイスホッケー。チケットを取ることも困難な中、運良くアメリカチ
ーム対カナダチーム（カナックス）の試合のチケットを取ることができた。会場に入
った瞬間の興奮は一生忘れないほど、今までのスポーツ観戦の中で一番印象に残るも
のだった。海外のスポーツの試合はパフォーマンスが多く、ライトアップされたりプロ
ジェクションマッピングなどのパフォーマンスが多く観られたりした。半分以上気が
つかずアメリカチームを応援してしまっていたので点数を入れた時の盛り上がり
が体験できなかったのが悔しかった。



3月13日

カフェテリアに行きそこで現地大学に通うインド人の方と出会った。もちろんアンケート調査も協力していただき順調に進めながら一緒にビリヤードをした。たくさん友達ができしたが、日本人の友達とずっといないように積極的に海外の人を遊びに誘ったりした。語学学校に来ている外国人は私たち日本人のように英語を習得したいから通っている。そのため英語を第一言語としているわけではないが、お互いのコミュニケーション方法が英語しかないためお互いに一生懸命話し、理解しようとする力、簡単な英語を使ってでも話したいことをなんでも話すようにすること、無言にならないようにたくさん話しかけることを意識できるようになった。



メキシコ料理に連れて行ってくれたメキシコ人たちと丸亀製麺のうどんを食べに行った。日本の文化を英語で教えることはすごく楽しいなと感じた。私は日本に魅力を感じることができず、日本の考え方を否定ばかりしていた。海外の自由な文化、積極的なポジティブな考え方が好きだからだ。しかし、日本の文化を知ろうとしてくれる外国人がたくさんいることがすごく嬉しく感じ、日本の文化を大切にしようという気持ちもカナダに来て感じられた。お箸の持ち方一つにおいても日本人である私が美しく持つことが文化継承のためにも大事なのだと思った。

3月13日

3週間しか通わなかった語学学校だったが、卒業式も参加させてもらえた。



3月15日

スポーツ交流としてバドミントンのアクティビティに参加した。いろんな年齢層の人と一緒にバドミントンを行いルールも英語で話し、ドイツでのスポーツ交流実習でも感じた言葉の壁を越えるスポーツの凄さに改めて気づいた。



3月16日

日本帰国まであと2日となった。最後はたくさん海外の人と触れ合って帰国しようと思いメキシコの子たちと1日中遊んだ。ノースバンクーバーの美味しいドーナツ屋さんに行き、リッチモンド付近にあるアウトレットに行き、ガスタウンでプーティンを食べに行った。カフェでは私が持ってきていた折り紙で鶴を折ったりした。お世話になった仲良くしてくれた子たちには折り紙にお手紙を書き、折って渡した。すごく喜んでくれ、日本の文化を大切にするのはもちろん、他の国の文化をもっと学びたいと思った。



3月17日

カナダ最終日は晴天だった。たくさん通ったガスタウン、たくさん乗った Millennium Line と 130 番、R5 のバス。そして出会ってくれた仲間たちとの思い出を噛み締めながら過ごした。そして何よりもホストファミリーとルームメイトにも感謝の気持ちでいっぱいだった。



空港までお見送りしてくれた、出会って2週間、3週間の友達たち。私にとってすごく大切な仲間たち。同じ目標を持った仲間がいることのありがたさをすごく感じる研修となった。私の第二のホームタウンとなったバンクーバーを去るのはすごく辛くて、日本に帰りたくなかった。卒業後の将来を考えるいい機会にもなった。



3月18日

無事に飛行機に乗り、バンクーバー国際空港→香港国際空港→関西国際空港。日本に帰国した。

カナダから香港の便と香港から大阪の便では雰囲気が変わり、客層の違いにもカナダが恋しくなった。カナダの生活やカナダから香港の便では人々がおおらかでゆったりとした生活を送り、譲り合いの精神や相手を思う気持ちが多く出ていたと思う。香港から大阪の便では社会主義国である中国の近くであることもあるのかカナダとは違う雰囲気を感じた。また日本人も多く乗っていたが、せっかちで自分のことしか考えず一番に飛行機から降りたいという考えや落ち着きのない感じが感じられ居心地が悪く感じてしまった。

日本にはたくさんいいところがある。他のどの国にもある。日本の良いところも残しながら海外で学んだ人の優しさを私自身も持てるようにしようと思った。何をしても周りが何も思わないことで自由があり、恐れることもなく、周りの目を気にして挑戦しないということもない。その広い心を私も持ちたい。

日本でも言われることが多くあった私の笑顔。海外でも笑顔を褒めてもらう機会が多くあり、この笑顔を大切にしようと思えた。



7、本海外研修を通して

Google フォームを使用してのアンケート調査を行った。

質問内容

① 全員に

- 1 名前（任意）
- 2 出身国
- 3 性別
- 4 年齢
- 5 先生か生徒（その他）

② 生徒、その他に

- 1 今まで受けたことのある体育授業でいちばん楽しかったものは何か
- 2 その理由
- 3 スポーツをしていますか
- 4 学校外で何のスポーツをしていますか
- 5 学校に部活動という概念はありますか
- 6 部活動に入っていましたか
- 7 スポーツをする上で目指していたレベル、目標は何ですか
- 8 どこでスポーツをしていますか
- 9 いつスポーツをしていますか

③ 先生に

- 1 あなたの国に部活動という概念はありますか
- 2 何のスポーツをしていますか/していましたか
- 3 スポーツの指導歴はありますか

④ スポーツ指導経験者に

- 1 スポーツの指導は何で行っていましたか（仕事、ボランティア、部活顧問）
- 2 授業で指導するときに何を意識していましたか
- 3 1年を通してどのような種類の体育授業をしていましたか
- 4 生徒にどれくらいの資質レベルを求めていますか
- 5 学校体育授業はどのような目的があると思いますか
- 6 今スポーツをしていますか
- 7 いつしていますか
- 8 1週間にどのくらいの頻度で行っていますか
- 9 なぜ今もスポーツをするのですか

集計

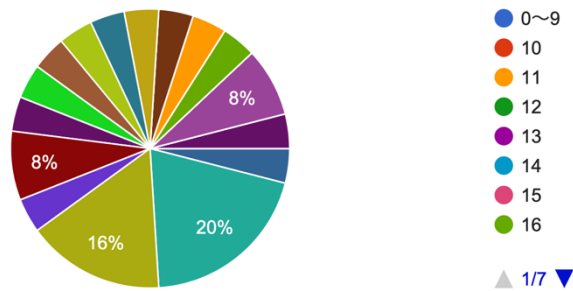
・国籍

カナダ人	3
中国	1
イラン	1
トルコ	3
韓国	3
メキシコ	3
インド	2 (Punjab)
スペイン	1
アメリカ	1
日本人	7 (留学生)

・年齢

Age

25 件の回答

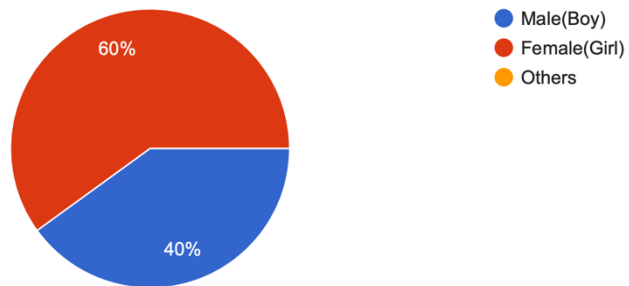


20 歳・21 歳で全体の 36% を占めた。

・性別

Gender

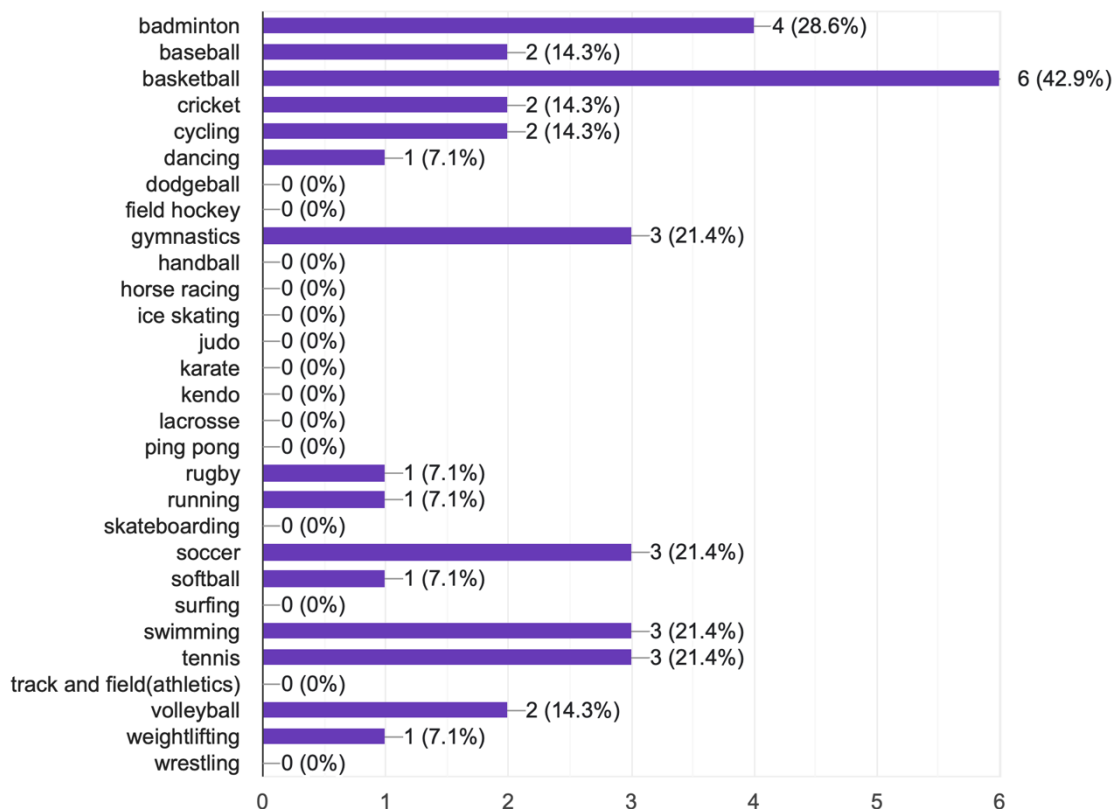
25 件の回答



- ・何のスポーツをしているか

What sports do you do out of school?

14 件の回答



結果

- ・体育授業で楽しかったことはバドミントン、バレーボール、バスケットボール、サッカーが多かった。
- ・その理由としてチームスポーツが好きだから、アニメに影響されたから、屋内で天候に左右されずに楽しくできたからという意見が多かった。
- ・学校に部活動という概念がないのは中国だけ。
- ・スポーツをする上でのゴールは、全国大会を目指す、レギュラーに入る、パワーをつけるため、楽しむため、特になし、健康のためとさまざまな理由だった。
- ・スポーツを行う頻度は冬だけ、夏だけと季節で決まっているものや、毎日、週末だけ、週に3回から4回などと幅が広がった。
- ・教師の中でスポーツを教えたことがあるのは1/4人。

- ・その中でもボランティアとして指導している人、放課後の部活動指導として指導している人がおり、メインの仕事としている人はいなかった。
- ・普段からスポーツの指導をしている教師は毎日運動をおこなっており、理由としては健康のため、楽しむためという理由だった。

考察

今、日本では部活動の地域移行が進もうとしている。海外では部活動の地域移行化が行われていると思っていたが、そのような実態は中国でしかまだ進んでいないのだと考える。もう少し多くのデータを取って見ないとわからないが、部活動という概念はまだまだほとんどの国であるようだ。

どのような体育授業が好きだったかについては日本で行われるようなものと同じであり、バドミントンやサッカー、バレーボール、バスケットボールが多く挙げられた。しかし理由は日本とは異なり、日本人 7 人の留学生に聞いたところではバドミントンは比較的誰でもできるものであるから運動神経の悪さが目立たないといったような理由などがあり、積極性のなさやネガティブな考え方、失敗に対する恐怖心と周りの目を気にしてしまうところがあるのだと考える。

スポーツをする理由、目標については、日本人が部活動をする上では県大会出場を目指す、スキル向上、全国大会出場、レギュラーで出ることなどがあげられた。一方で他国ではただ楽しむだけ、パワーをつけるため、エクササイズのため、健康のため、強い体を作るためなどと健康志向が強いという印象を受けた。

部活動と聞くと日本では週のほとんど学校が終わってから部活動にかける時間がある気がする。しかし、週に一回や暇なとき。スケジュールがあったとき、週末だけや冬の間だけといったように海外では強制参加が少なく自由が多くやるかやらないかは自分次第という気がする。

体育教師でない先生も放課後に毎日運動をするという回答が多く、日本人に比べて肥満が多い海外でも運動面では日本よりも健康志向が強く運動意識が高いことがわかった。

これからの部活動のあり方や学校体育授業は日本においても海外においても年々進化していくと考えられる。部活動という概念がほとんどの国で今なお存在している点でなくなることはないと思うが、地域移行の現状についてさらに調査したい。

8、最後に

この度は本海外研修を実施させていただき本当にありがとうございました。

大学生活においてこの研修に参加できたこと、嬉しく思います。すごく実りある研修となりました。今回の研修は私の人生において将来を考えるチャンスにもなり、新たな道を開く機会にもなりました。この研修で終わりではなく、これからも調査し続け自分の将来の仕事においても活用できるように努力します。

この研修に関わってくださったすべての方々、応援してくれた家族に感謝します。皆様のおかげで無事にこの研修を終えることができました。

改めて、このような素晴らしい機会を与えていただき本当にありがとうございました。

